

広報みしま

町のすがた

(10月1日現在)



第 295 号

人口 男 3,339人 (-5)
 女 3,620人 (+3)
 計 6,959人 (-2)
 世帯数 1,756 (+1)
 () は 9月1日との比較

平成 4 年 10 月 21 日
 発行 新潟県三島郡三島町役場
 ☎ (0258) (代) 42-2221
 印刷 長岡市 あかつき印刷



三中に コンピューター 教室

情報化社会といわれ、私たちの生活に欠くことのできないものとなってきたコンピュータ。生徒に早いうちから慣れ親しんでもらおうと、このほど、中学校第二理科室にコンピュータ二十一台が配置され、「コンピュータ授業」が始まりました。ゲームソフトに熱中する生徒は、さすがに現代っ子、上達の速さは、指導の先生が舌を巻くほどとか。

「学活」の時間を利用してのコンピュータ授業も、来年度からは「技術家庭科」の一分野として、正式な教育課程となることとです。

食べ物に季節感がなくなつたといわれる昨今ですが、サンマは秋の味覚の代表格です。サンマは秋刀魚と書きます。体長四十センチほど、背の部分が青黒色で腹のほうは白銀色、細長く背びれが後ろのほうについていて、刀に似ているところから、こういう字を書くのでしょう。

サンマが秋の味覚とされているのは、毎年秋に産卵のために千島列島付近から南下を始め、東北、関東の沖を通過するこの時期に、漁が盛んになるからです。捕れたサンマの二〇％は生で利用され、六〇％は冷凍となり、そのほか缶詰などになります。冷凍物はマグロ漁などのエサにも利用されていますから、サンマのおかげでマグロの刺し身や、すしを食べていることにもなるのです。



季節風

産 業まつり

今年で20回目となる産業まつりが、11月3日、町体育館で行われます。

農林水産物品評会、農協の野菜即売や菊花展、商工会、森林組合、ガス企業団等による出店特売市や展示会、さらに各協力関係団体の皆さんによる盛りだくさんの催しが計画されています。

皆さんの多数のご来場と品評会への出品についてご協力をお願い申し上げます。



「近所お誘い合わせて
お出かけください。」

11月3日

文化の日

健 康展 (同時開催)

- パネル展示
糖尿病とは? その合併症
- 体験コーナー
エアロバイクで体力チェック
- 相談コーナー
健康、栄養に関することなら何でもお気軽に。

町 民駅伝大会

文化の日には恒例の「町民駅伝大会」が行われます。

町体育館前を10時にスタートします。

力走する選手への熱い声援をお願いします。

10月25日 新潟県知事選挙

SUN

これからの県政を託す大切な選挙。
皆さんおそろいで投票しましょう。

今月の納税

- * 町民税・県民税 第三期分
- * 国民健康保険税 十月分
- * 国民年金保険料 十月分
- * 水道料金 十月分
- * ガス料金 十月分

俳句

コスモスの揺れいて影の定まらず
緑陰や桜大樹の大手門
稲刈ってほっとする間の一二日
秋の風さらさら葉音流しけり
通る人なき峠径こぼれ萩
爽やかや動くともなく気球浮き
秋の田の刈りつくされし広さかな
名月や宇宙船と話す子等
蕎麦の花真白き蝶も交はりて
糸瓜水たまり具合をのぞきけり
蕎麦の花日暮れはさらにやはらかき
分け入りて花野の芯となりけり
仕上りを明日へ残せりちろ虫
山畑入り日止めたり蕎麦の花

田口俊夫

短歌

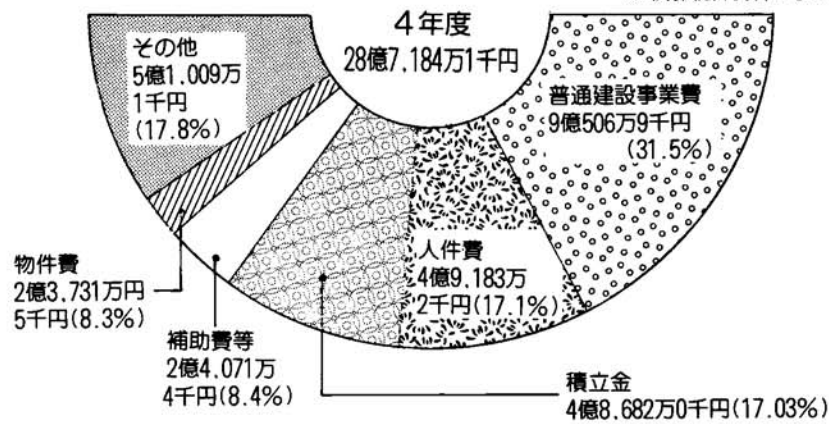
ヒュウドドン花火はあがる大輪の
咲きつ枝垂れつ夜空に煌めく

文芸



〈性質別経費〉

※決算統計資料による



うちわけ

総務費	88,520円
土木費	79,129円
教育費	54,548円
民生費	39,273円
労働費	28,558円
農林水産業費	27,451円
公債費	25,579円
衛生費	22,244円
消防費	19,565円
その他	29,369円

町民1人当たり
いくら使われた?
41万4,735円
(一般会計のみ)

特別会計

	歳入	歳出	差引額
国民健康保健	3億2,593万円	2億6,904万円	5,689万円
老人保健	4億9,391万円	4億8,062万円	1,330万円
下水道事業	6億4,587万円	6億4,587万円	0



歳出総

教育、スポーツ施設の整備
教育施設の整備については、脳野町小学校のプール改築を事業費九、〇六四万円で行ったほか、スポーツ広場(野球場)のナイター施設を整備しました。生活関連事業の整備充実
町道整備では、要望の多い融雪施設に一億一、八六三万円を投入し、削井五本、消雪パイプ十一路線二、七三八メートルを整備しました。道路の新設改良関係では、連脇線を始め十一路線の改良舗装を推進したほか山本橋の架替に着手しました。また、下水道基金に五、三八八万円を積立しました。

消防施設では、防火水槽や消防車庫、ポンプ積載車を拡充整備し、消防力を強化したほか、防災行政無線(移動系)を導入しました。地域づくり事業と産業の振興
人材育成基金三千万円を積立、この果実を人材の育成やまつり活性化等に充てたほか、西山マラソンロードの整備、ふるさとソング発表会にもそれぞれ資金

町税においては、住宅団地の造成と企業誘致による税収の伸びがあった反面、法人関係の減収も大きく、総額で四億七、二〇八万円、対前年度比一・六〇の増に止まりました。

地方交付税は、収入割額一三億一、七〇五万円、前年度より一五・四〇の増となりました。これは、平成三年度交付税需要額の中に減債基金費五、六一七万円、地域福祉基金費三、〇〇七万円、土地開発基金費三、五五一万円などの算入があったことによるものです。

国、県支出金では、緊急地方道路整備臨時交付金三、九七五万円のほか、脳小プール、消防防災無線、農村総合整備モデル事業等補助金の収入がありました。

町債の借入れにあたっては、交付税への算入措置のある優良債の確保に努力し、公債費比率の低減を図っております。(平成三年度公債費比率は九・四〇%)

農林業関係では、農村総合整備モデル事業等国庫補助事業を導入し、農道(七日市)、集落道(脳野町)や林内作業道の整備、中条農村公園を建設し、生産基盤、生活基盤の向上を進めました。また、商工業振興のため各種助成措置を行いました。

保健、福祉の充実
家庭奉仕員の派遣事業等在宅福祉サービスを実施したほか、地域福祉基金を増額し、在宅ねたきり者介護手当の支給、重度障害者に対してハイヤー小型基本料金を助成する制度を発足させました。

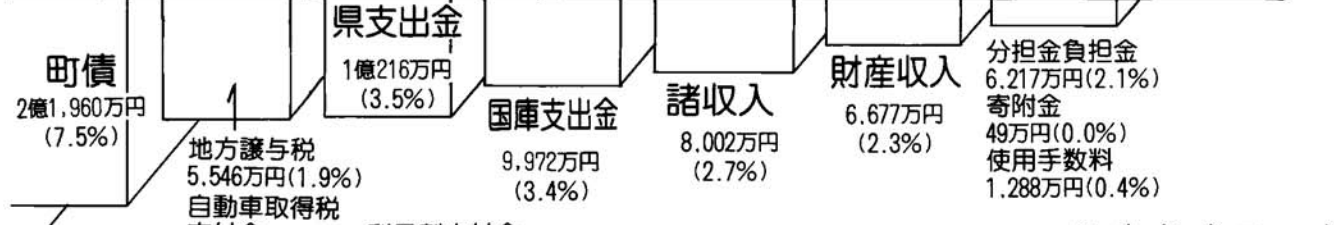
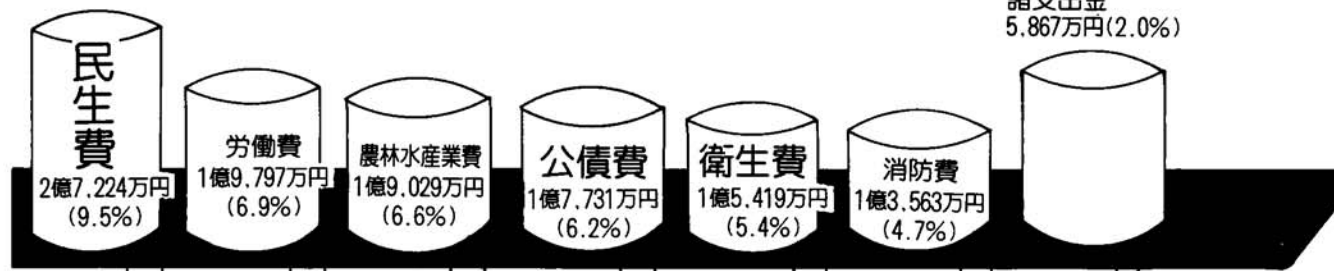
健康づくり対策として各種健診の充実を図り、日帰りドック事業の受診者は、前年度を大きく上まわりました。

増え続けるごみについては、不燃ごみの収集を月一回から二回に増やすとともに、ごみの減量化、再利用などのPRに努めました。

平成3年度決算まとまる

一般会計

歳出 28億7,495万円



歳入 29億3,672万円

町債 2億1,960万円 (7.5%)
地方譲与税 5,546万円 (1.9%)
自動車取得税 2,687万円 (0.9%)
交通安全対策特別交付金 104万円 (0.0%)
国庫支出金 9,972万円 (3.4%)
諸収入 8,002万円 (2.7%)
財産収入 6,677万円 (2.3%)
分担金負担金 6,217万円 (2.1%)
寄附金 49万円 (0.0%)
使用手数料 1,288万円 (0.4%)

平成三年度の決算がまとまり、九月定例町議会で承認されました。一般会計の歳入総額は二億九千三、六七二万円(対前年度比一四・八〇増)で、歳出総額は二億八千七、四九五万円(対前年度比二四・〇〇増)となりました。歳入における予算執行率は九八・四〇で、四、六四二万円の不用残を生じました。この結果、歳入歳出差引額は六、一七二万円となり、この額から三、五〇〇万円を財政調整基金に積み立て、残額二、六七二万円を四年度に繰越しました。

町税においては、住宅団地の造成と企業誘致による税収の伸びがあった反面、法人関係の減収も大きく、総額で四億七、二〇八万円、対前年度比一・六〇の増に止まりました。

地方交付税は、収入割額一三億一、七〇五万円、前年度より一五・四〇の増となりました。これは、平成三年度交付税需要額の中に減債基金費五、六一七万円、地域福祉基金費三、〇〇七万円、土地開発基金費三、五五一万円などの算入があったことによるものです。

国、県支出金では、緊急地方道路整備臨時交付金三、九七五万円のほか、脳小プール、消防防災無線、農村総合整備モデル事業等補助金の収入がありました。

町債の借入れにあたっては、交付税への算入措置のある優良債の確保に努力し、公債費比率の低減を図っております。(平成三年度公債費比率は九・四〇%)

農林業関係では、農村総合整備モデル事業等国庫補助事業を導入し、農道(七日市)、集落道(脳野町)や林内作業道の整備、中条農村公園を建設し、生産基盤、生活基盤の向上を進めました。また、商工業振興のため各種助成措置を行いました。

保健、福祉の充実
家庭奉仕員の派遣事業等在宅福祉サービスを実施したほか、地域福祉基金を増額し、在宅ねたきり者介護手当の支給、重度障害者に対してハイヤー小型基本料金を助成する制度を発足させました。

健康づくり対策として各種健診の充実を図り、日帰りドック事業の受診者は、前年度を大きく上まわりました。

増え続けるごみについては、不燃ごみの収集を月一回から二回に増やすとともに、ごみの減量化、再利用などのPRに努めました。

は42億7,048万円に

歳入

歳出

農村環境改善センター建設始まる

二階に郷土資料館 完成は来秋の予定



庁舎脇に建設される農村環境改善センター完成予想図

農村環境改善センター・郷土資料館の建設工事が始まりました。

農村環境改善センターは、農村地域の生産基盤、生活基盤の向上をめざし昭和六十三年から始まった「農村総合整備モデル事業」のメインとなる事業で、国の補助を受けて、農業振興の拠点施設として建設されます。

約四六〇平方メートルの多目的ホール（一階）は、イス席で四百人程度の集会も可能です。ゲートボールなど軽スポーツが室内で楽しめ、この外、営農推進室、農業情報室、和室研修室があります。

郷土資料館には、二階フロア、約四三〇平方メートルが充てられ、現在日吉小学校舎の一室に陳列保管してある町保有の文化財資料が展示されます。

完成は来年秋の予定で、総工費は約四億五千万円。

町政発展に功績のあった人を表彰する平成四年度町功労者受彰式が九月二十一日、役場で行われました。

今年度の受賞者は、ほう賞五名の方々と、永年のご労苦に対して町長より謝辞があり、受賞者一人ひとりに表彰状と記念品が贈られました。

表彰を受けられた方々

ほう賞

(順不同、敬称略)

住所	氏名	功績
上岩井	佐藤 才一郎	民生児童委員総務
長岡市	上村 フミエ	保健事業推進
脇野町	小林 忠五郎	柔道指導者
蓮花寺	石黒 和衛	町教育長、町職員
藤川	小 熊 静子	町職員

平成4年 町ほう賞 晴れの受賞者5名



左から上村フミエ、石黒和衛、2人おいて佐藤才一郎、小林忠五郎、小熊静子の各氏

藤川・気比宮転作集団 「新潟県大豆 採種ほ場」に指定

指定

町内の各転作集団組織では、米の生産調整が続くなか、品質のよい転作大豆の生産に努力しています。

昨年は下河根川集団転作組合が北陸農政局長賞を受賞し、藤川集団転作組合は「県の指定種子生産ほ場」の指定を受けました。

本年は、藤川に加えて気比宮の転作集団も種子生産ほ場の指定を受け、五ヘクタールの種子用大豆を栽培しています。

種子用大豆は、価格が高い反面一般の大豆に比べて検査規格が厳しく、それだけ作業にも時間を要しますが、両転作集団では適確な栽培管理に努め、高品質な種子用大豆の収穫が見込まれています。

米の生産調整は、来年度から新しい制度に切り替わりますが、いずれにしても厳しい内容になると思われ、引き続き生産組織等を軸と

した積極的な転作計画の取り組みが期待されます。

消防団ポンプ操法 競技大会の成績

十月四日、役場駐車場で町消防団ポンプ操法競技大会が行われました。その成績は次のとおりです。

＊小型ポンプ操法

優勝 第九部（上岩井）

準優勝 第十部（中条・大野）

第三位 第十四部（鳥越）

このほど、優良運転者として、丸山昇次さん（脇野町）、安全運転管理者として難波文男さん（七日市）が、交通安全賞「緑十字銅賞」を受賞されました。

丸山さんは、町安全協会の役員として、また難波さんは、安全管理事業所の町支部長として、交通安全の推進に大きく貢献されています。

交通安全賞 緑十字銅賞 丸山昇次さん 受賞

難波文男さん 受賞

このほど、優良運転者として、丸山昇次さん（脇野町）、安全運転管理者として難波文男さん（七日市）が、交通安全賞「緑十字銅賞」を受賞されました。

丸山さんは、町安全協会の役員として、また難波さんは、安全管理事業所の町支部長として、交通安全の推進に大きく貢献されています。

明るい家庭「図画・標語」コンクール入賞者

青少年育成三島町民会議主催の「明るい家庭図画コンクール」及び「明るい家庭標語コンクール」の入賞者が決まりました。

このコンクールは、子供たちの非行化防止を図るため行われたもので、入賞作品は文化の日に開催される産業まつりで展示されます。

子供たちの目を通した「理想の家庭像」をぜひご覧ください。

▼一年 小川千鶴、片沼力、山田恵里香、古山千絵、新田恵里子、柳澤卓、西原純、東やよい、若月健亮、新保史行、関愛、内藤佑紀、奈良場達弥、小林竜太、滝澤賢一、新保綾乃、斎藤智史

▼二年 伊部和樹、片桐麻美、中村美香、片桐明美、佐藤歩、小野寛秀、中村俊輔、米持美果、中川寛子、原和史、山田祥隆、丸山奈緒美、古井丸睦月、小黒博美、山田圭祐、本間幸枝、

山田裕介、永井将史、村山香奈子、元井秀子、小熊理絵、小方亮、山後正樹、西巻和俊、田中規子、山田直美、若月友紀子、本村圭太、片沼愛美、原陽子、小坂圭三、中村麻美、田村真之、山田利佳、小川昌志、中村純、大島康彦、河野小百合

▼最優秀賞 新保晴香、優秀賞 笠原順真、神林幸広、渡辺純人、西山智子、山田和宏、入選 柳俊介、米持あゆみ、田村玲子、新保由香里、田中加奈子、井上理子、平原慎司、荻野あゆみ、安立美加、池田絵里子、中川三枝子、片野城太郎、中野三恵子、小林雅枝、中野美智子、本村江理奈、大島直樹、新保美有紀、古井丸加代子、永村沙織、片桐篤原稔、米持貴幸、西原絵里子、武田英美、斎藤可奈子、山田八恵子、古見英子

使い捨て文化

三島中学校 長部 学

近年、環境保護の問題が様々な所で取り上げられるようになってきた。新製品の宣伝にさえ、リサイクルへの取り組みが取り上げられる時代である。ところで身近な生活について考えてみると、相変わらず使い捨ての文化である。日本人は、いつからこんなに物を大事にしなくなったのか。

先日、テレビのニュース番組で、意外な話をしていて、日本人の使い捨ては、経済的に豊かになって始まったというようなのではないか、もともと歴史的に根の深いものだということである。

そこでは、伊勢神宮の式年遷宮と割り箸が例にあげられていた。伊勢神宮では、二十年毎に正殿ほか諸殿舎のすべてを隣接する土地に新たに造り替えていく。来年が第六十一回目になるという歴史的目的がある。これは、常態である神々にふさわしいという意味があるのだそうである。また、現在のようないろいろな割り箸が使われるようになる前にも、古くから毎年新しい箸を作って使う習慣があったという。これも、使えなくなるからではなく、同じ様に心情的な理由から行われたようである。

このように考えると、もともと物を大事にしなかつ

心の窓

たかのように、もう一つの面もある。例えば漆器などでは大事に扱って非常に長く使用されたということである。さて、これら二つの面は、一見相反するようだが、そうでもない。漆器などは新品の状態を保つより古びて下塗が浮き出て来るとの美しいとされてきた。共通するのは、変わらないものより、自然界のように変化していくものを好むという点で、最初のなげ使い捨ての文化かということに立返りたい。もともと、うつろいやすくなるものや、心があった。それに加えて、現代の工業製品が古びた味わいを備えなくなったのだからと思われる。

しかし、このままでよいのだろうか。もともと使用可能な状態で、伊勢神宮のよう特別に意味付けられた物に意味付けられた物だった。現代においては新製品が、それを買うと生活が変わる特別なものである。確かに、スキの板を毎年買い替える人にとってスキの板は特別な物なのだろう。デザインを変えた新製品が、一番売れるのは日本という体だけだけの物が、本当に必要なのだろうか。資源の無駄使いが問題にされる今日、考える必要がある。

